

海事立市「長崎」の挑戦

長崎市長 鈴木 史朗



自己紹介

長崎市長

鈴木 史朗

長崎市出島町に生まれる（1967年7月）

東京大学法学部卒業（1991年3月）

運輸省（現国土交通省）入省（1991年4月）

入省時、海上交通局（←貨物流通局）へ配属。
海運・港運行政を担当。油濁損害賠償保障法改正作業も従事（内閣法制局 宿利正史参事官）。

その後、「海の行政のデパート」と言われる旧運輸省系部局において、船員行政（海の労働省）、海上保安行政（海の警察・消防）などを経験。

国土交通省（九州運輸局長）退職（2022年12月）

長崎市長選 初当選（2023年4月）

INDEX

目次

- 1 海事立市「長崎」の背景**
- 2 長崎市が直面する課題**
- 3 課題解決の鍵となる「海」**
- 4 まとめ**

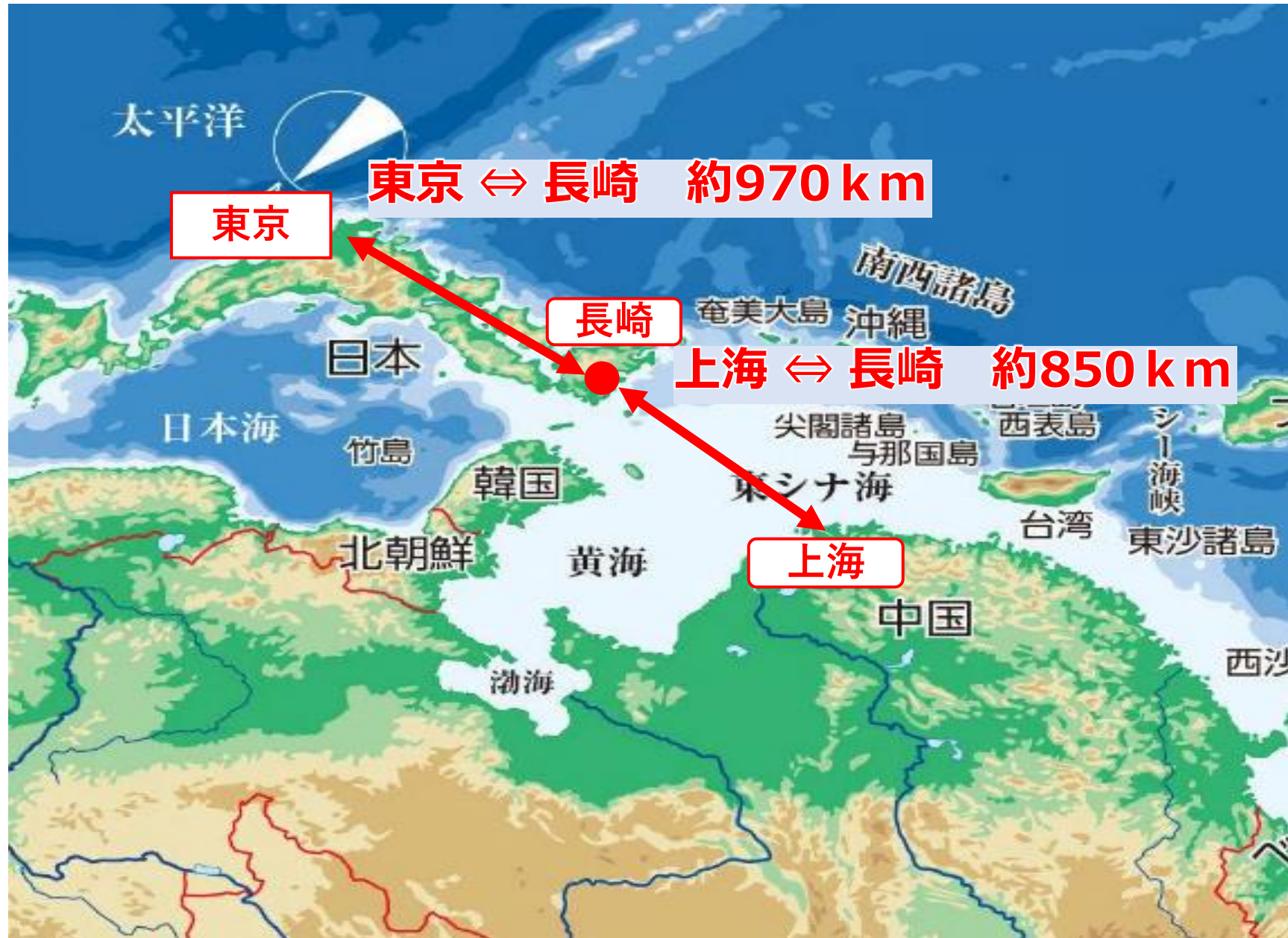
1. 海事立市「長崎」の背景

海事立国 「日本」

海事立県 「長崎」

海事立市 「長崎」

長崎の地政学的位置



長崎港の歴史

1500年代（1571年開港）

1600年代

1700年代

南蛮船の時代



↑ 南蛮屏風

出島・唐人屋敷の時代



↑ 出島

長崎港

長崎港と造船業の歴史

長崎港

造船業

1800年代



長崎市街の中心と梅香崎居留地

居留地の時代



黎明期



長崎鋳鉄所



立神第一ドック

長崎港と造船業の歴史

長崎港

造船業

1900年代

上海航路の時代



←
日華連絡船
(上海航路)

黄金期と発展



←
戦艦「武蔵」

戦後の復興と拡大



提供「三菱重工業(株)」

1974年
造船・造機従業員数
20,640人

←
32万トン級のVLCC
(大型原油タンカー)

長崎港と造船業の歴史

2000年代

長崎港

観光都市の時代



←
大型外航
クルーズ船入港

変革期

造船業

2023年
造船造機従業員数
5,856人

→
LNG燃料船



護衛艦もがみ ↓



長崎港概要

明治期～終戦→終戦後から昭和末期→平成期から現在

外港地区(生産拠点)

香焼
神ノ島
柳埠頭
女神大橋
小ヶ倉
皇后埠頭

内港地区(人流・賑わい)

松が枝ターミナル
長崎水辺の森公園
大波止ターミナル
松が枝埠頭
出島岸壁
長崎駅
旧魚市→県庁・県警本部

資料提供：長崎県港湾課

長崎市の主な造船会社

海上輸送を担う商船、艦艇・巡視船、鋼製漁船・漁業取締船、環境対応船に加え、浮体式洋上風力など幅広い分野での取り組みが進められている

三菱重工業株式会社
長崎造船所



株式会社大島造船所
香焼工場



提供「(株)大島造船所」

福岡造船株式会社
長崎工場



株式会社井筒造船所



長崎造船株式会社



株式会社ふくおか
渡辺造船所



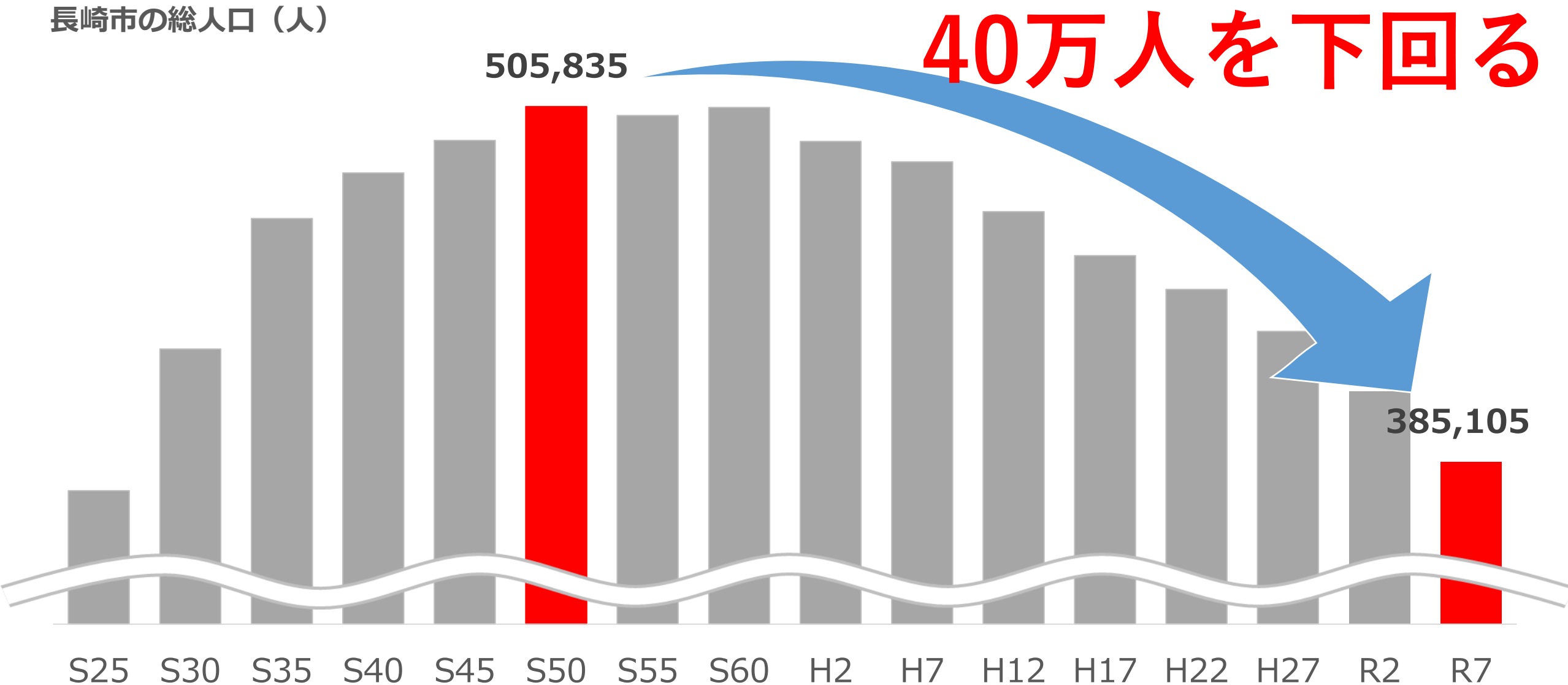
その他 修繕 5 社

- ・ 三菱造船株式会社
- ・ シンナガ株式会社
- ・ 有限会社岡田造船所
- ・ 株式会社樋口造船所
- ・ 浜田造船所

2. 長崎市が直面する課題

長崎市の人口減少について

長崎市の総人口（人）



※出典：【長崎市】推計人口

人口減少

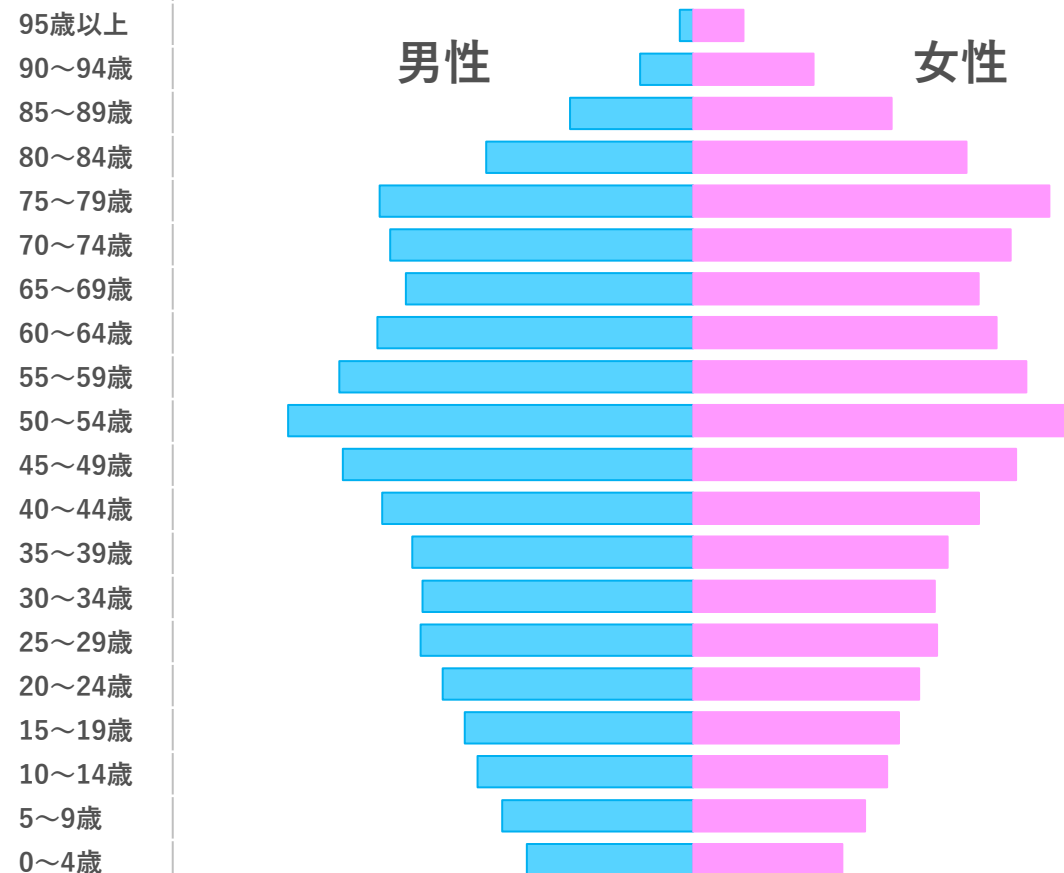
= 自然減（死亡者数－出生数）

+ 社会減（転出者数－転入者数）

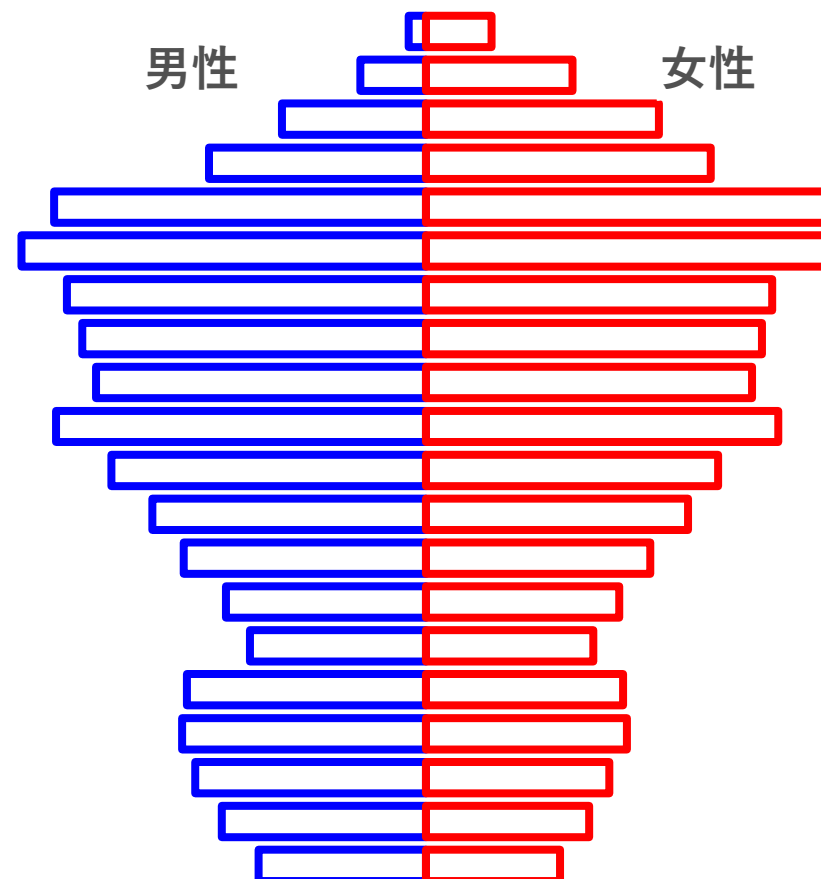
人口ピラミッド（年代別構成比）

2025年

日本全体：「つぼ型」

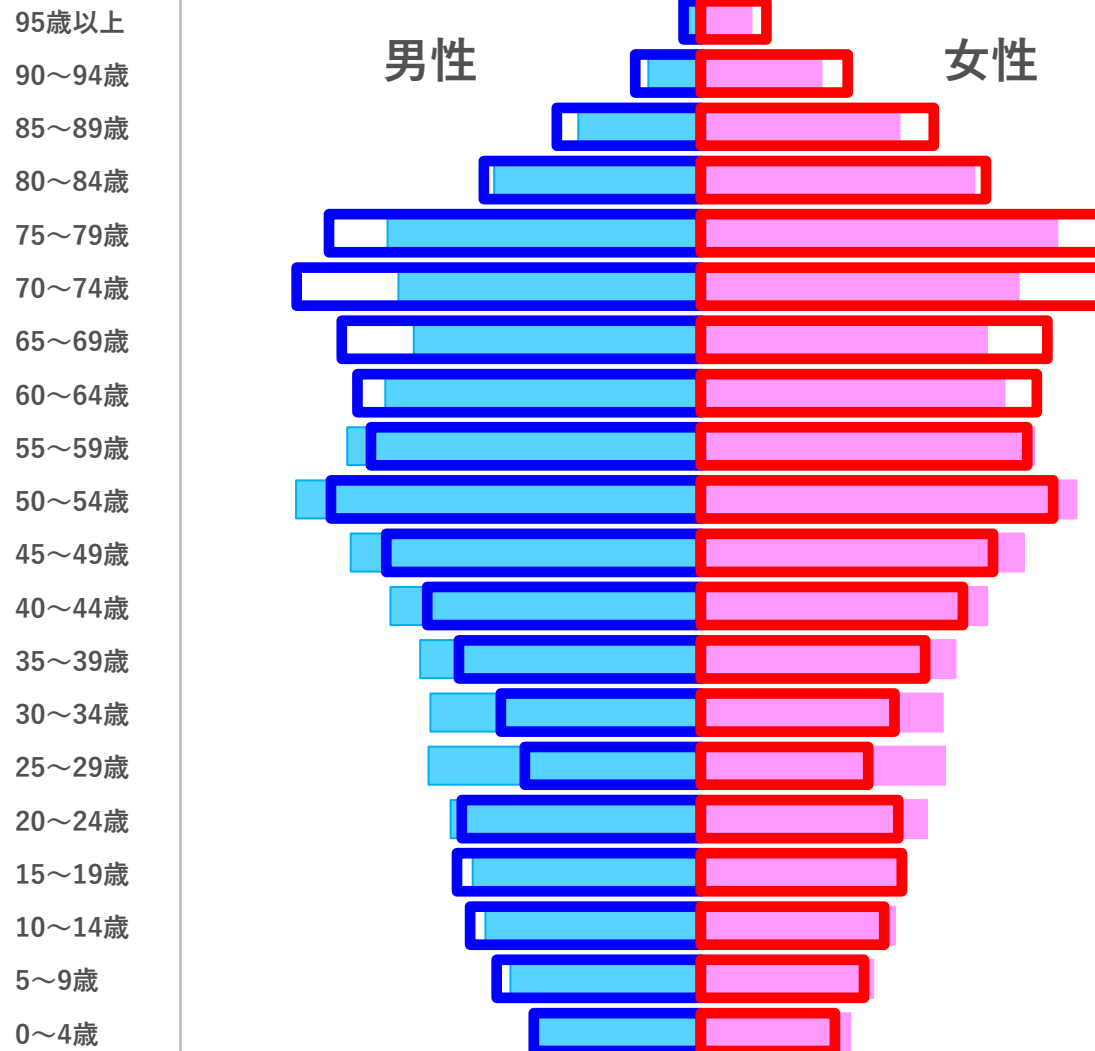


長崎市：ほぼ逆三角形！



人口ピラミッド（年代別構成比）

日本全体と長崎市（2025年）



グラフを重ねると・・・

日本全体と比べて長崎市は

- ・ 高齢者の比率が大きい
- ・ 生産年齢や出産可能年齢の比率が小さい

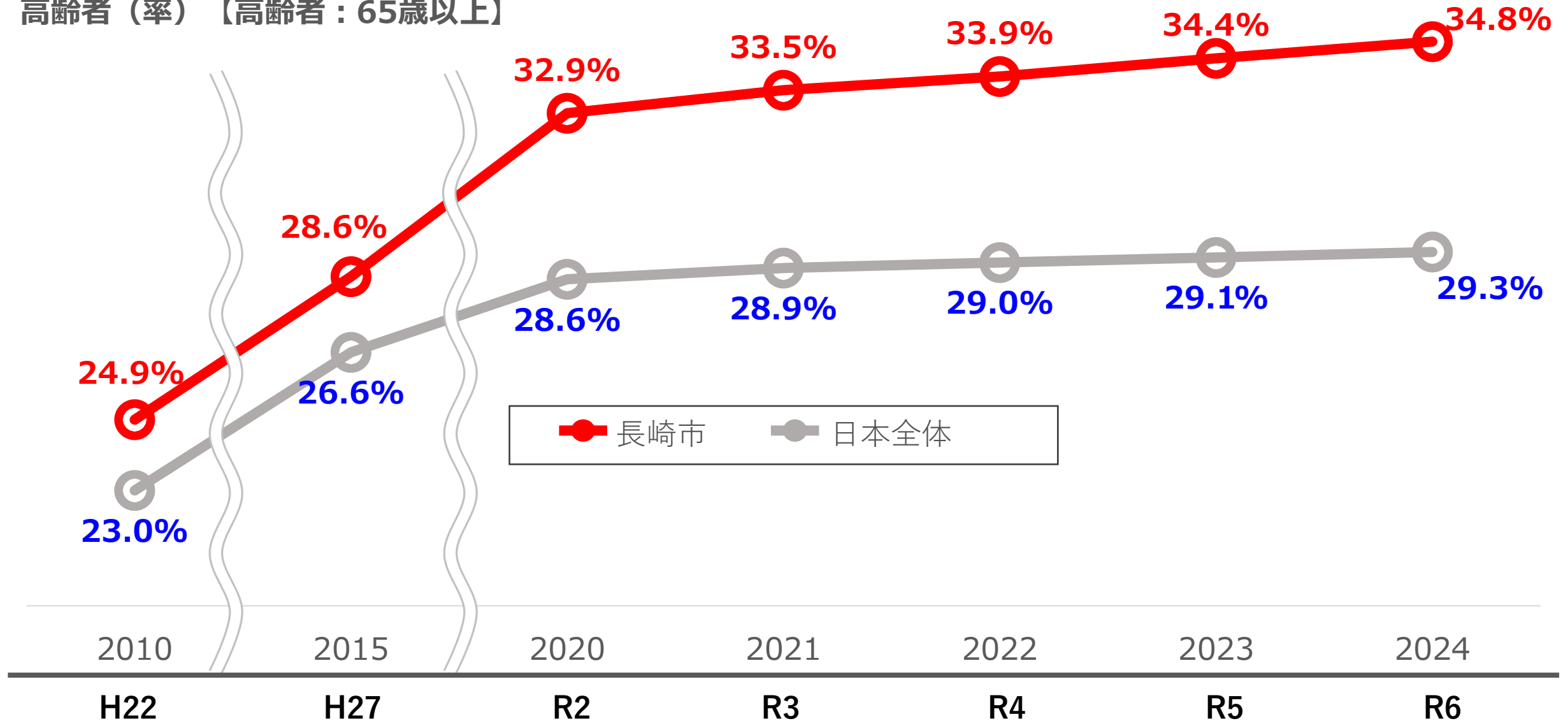
凡例



※出典：【総務省】統計ダッシュボード

高齢化（日本全体と長崎市）

高齢者（率）【高齢者：65歳以上】

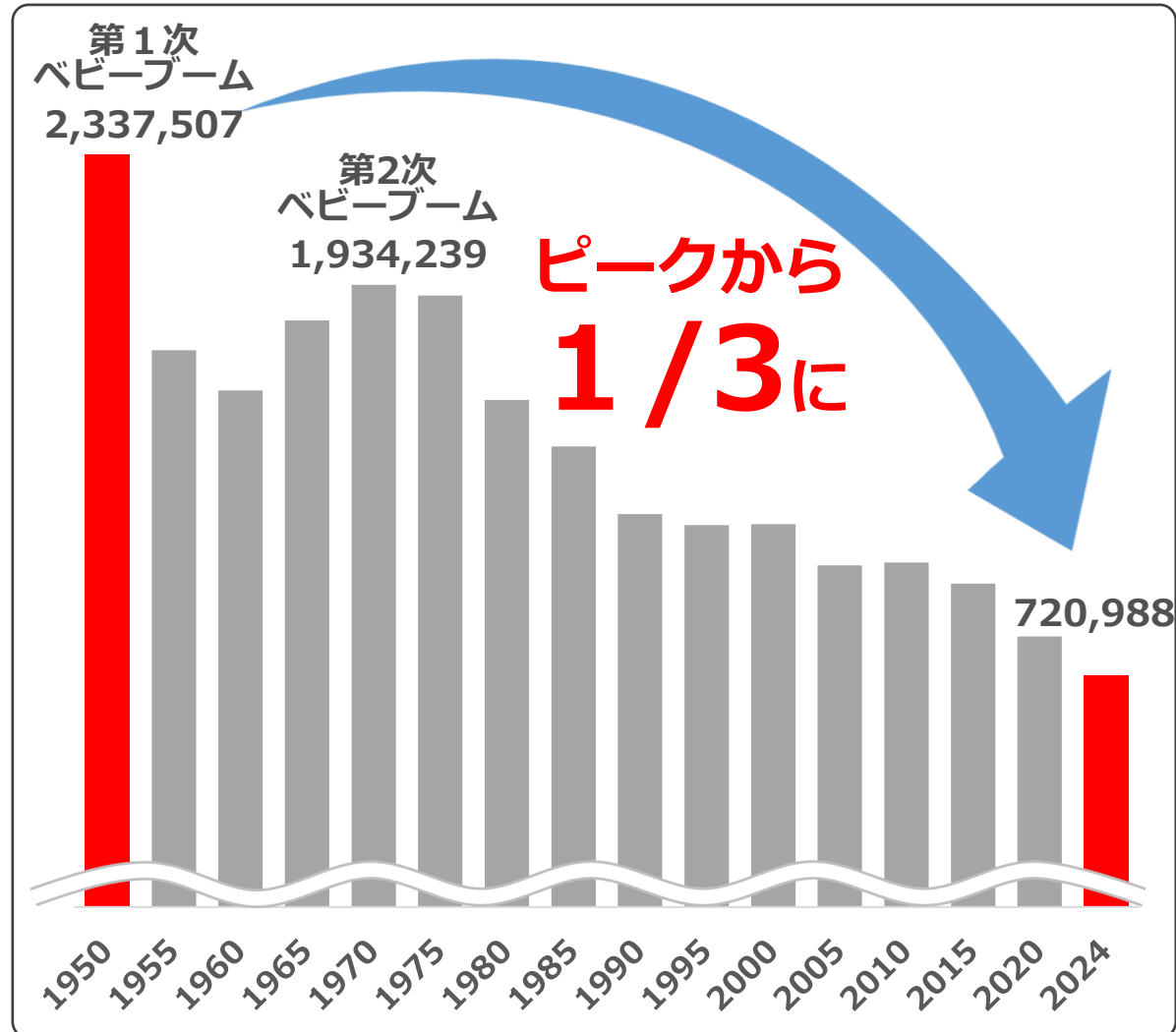


※出典：【総務省】人口推計

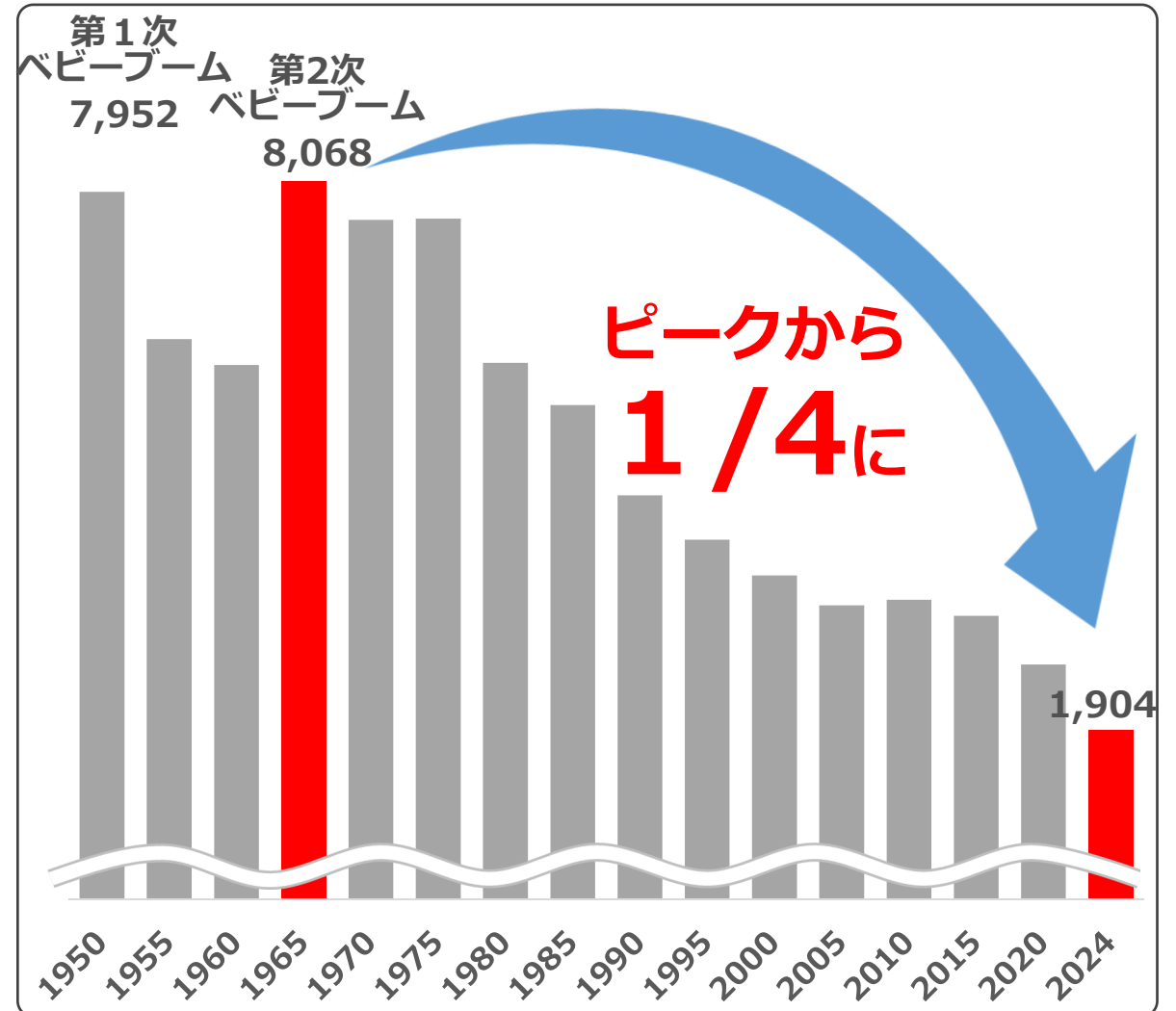
【長崎市】年齢別推計人口

少子化（出生数）【日本全体と長崎市】

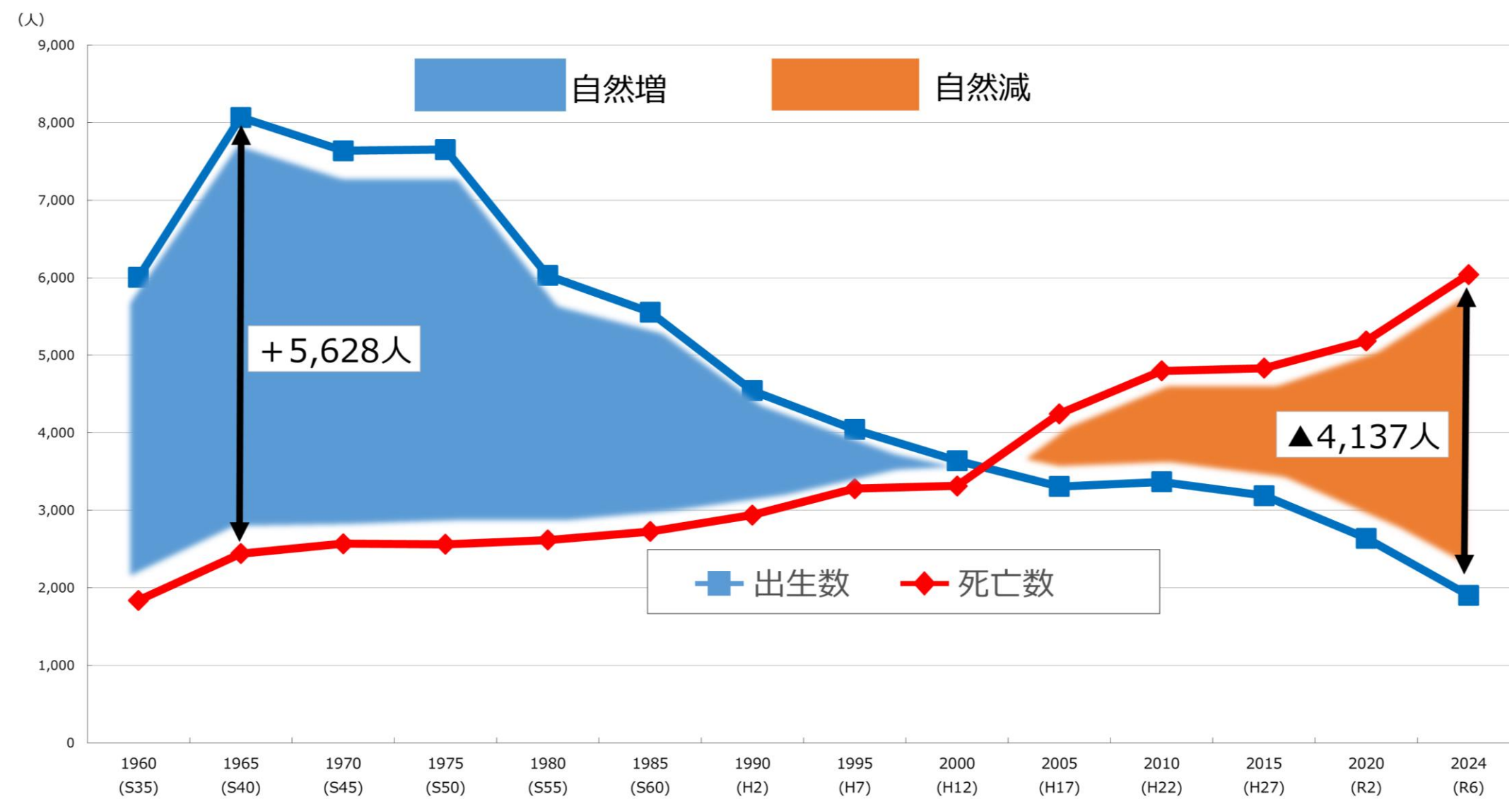
日本全体



長崎市



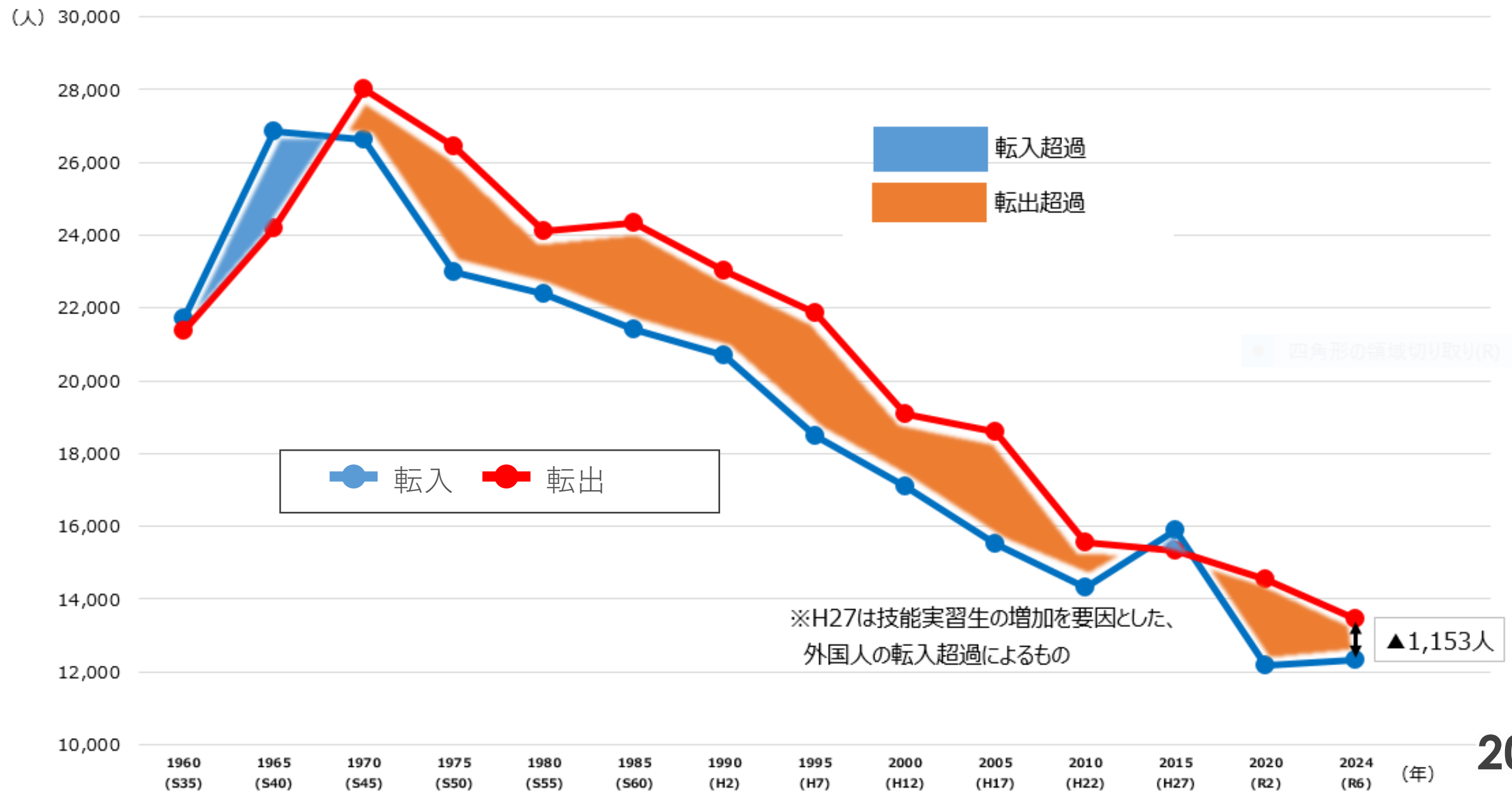
自然動態の推移（長崎市）



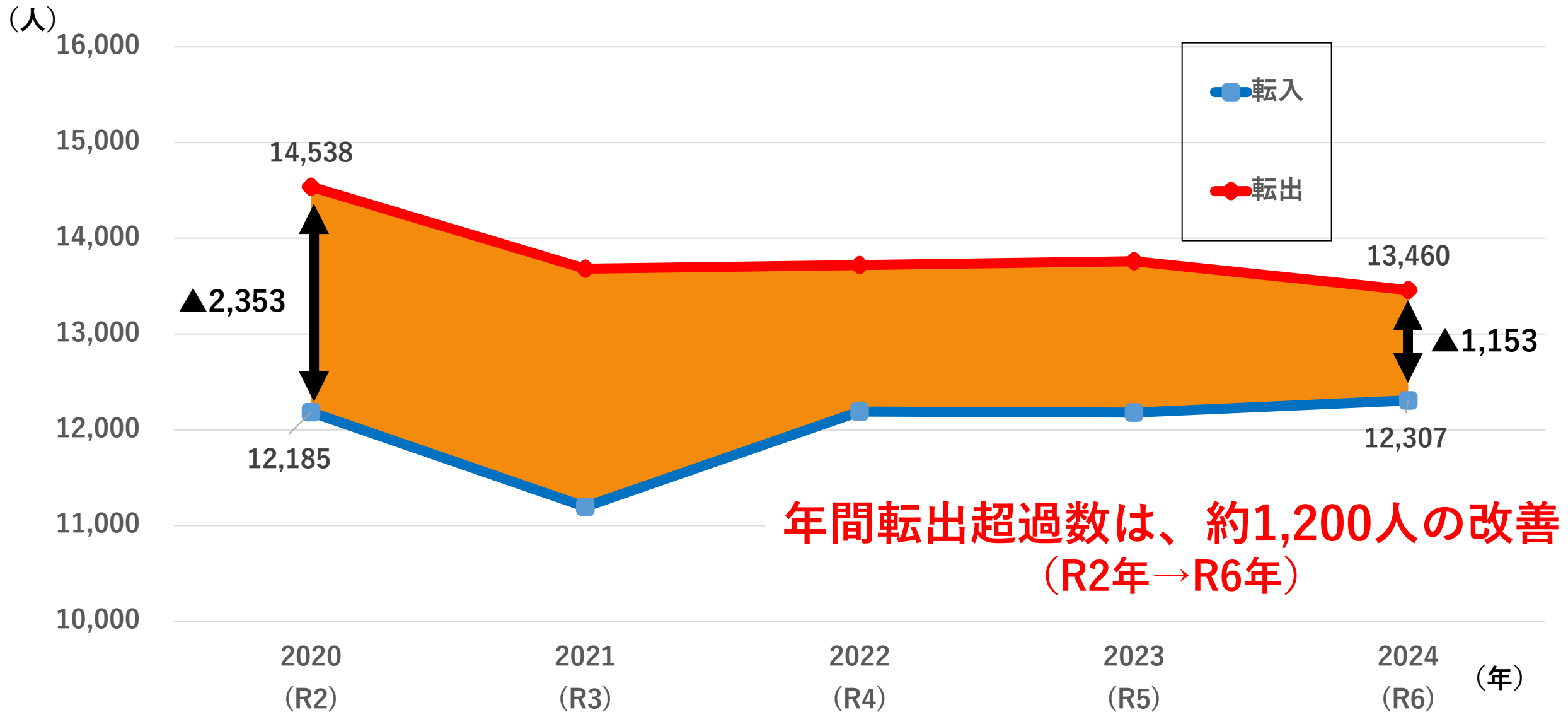
※上記人数には外国人を含む。
※出典：【長崎市】統計年鑑ほか

【各5年間の単年平均】

社会動態の推移（長崎市）



長崎市の人口の推移（転出超過の改善）



3. 課題解決の鍵となる「海」

人口減少対策としての海の利活用

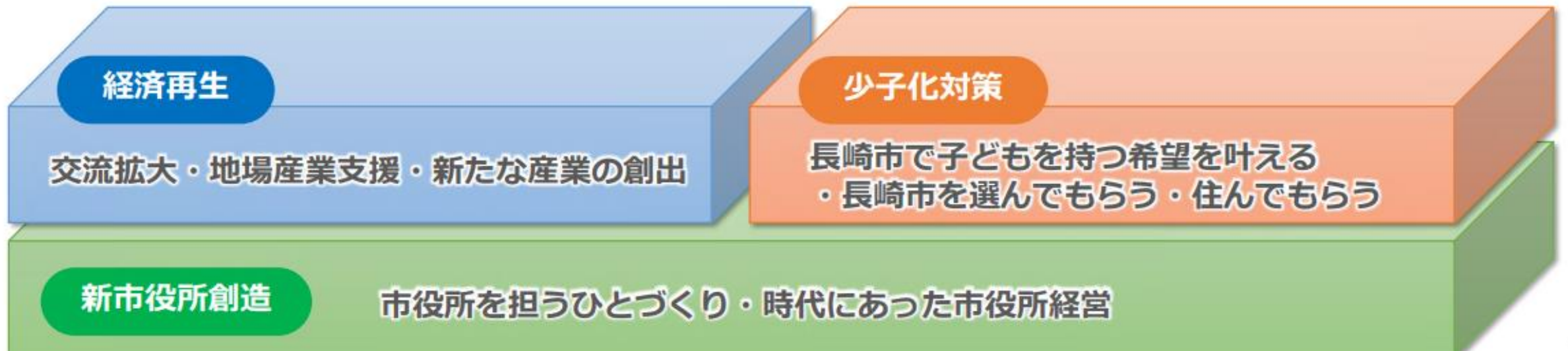
人口減少の進行



社会的・経済的な問題が深刻化...

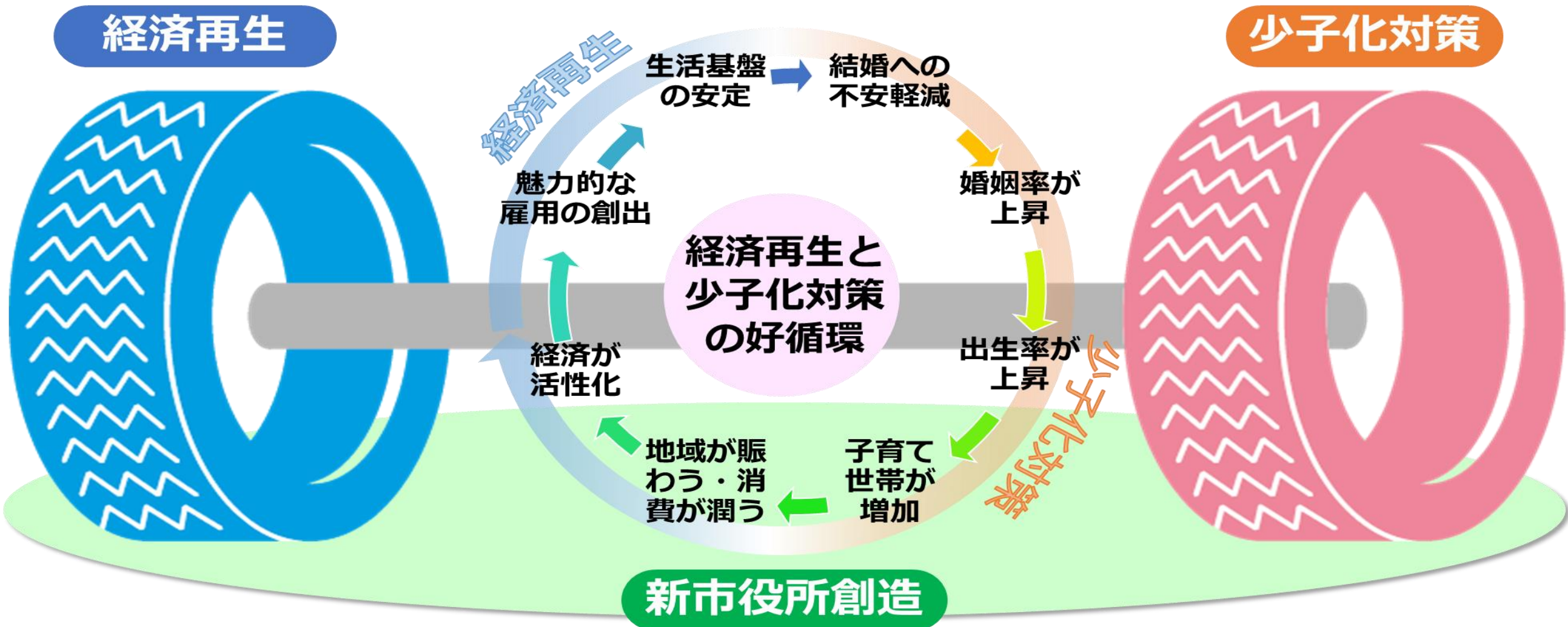


人口減少対策として、3つの戦略的な取組を展開



重点プロジェクトアクションプラン

3つのプロジェクトの関係性

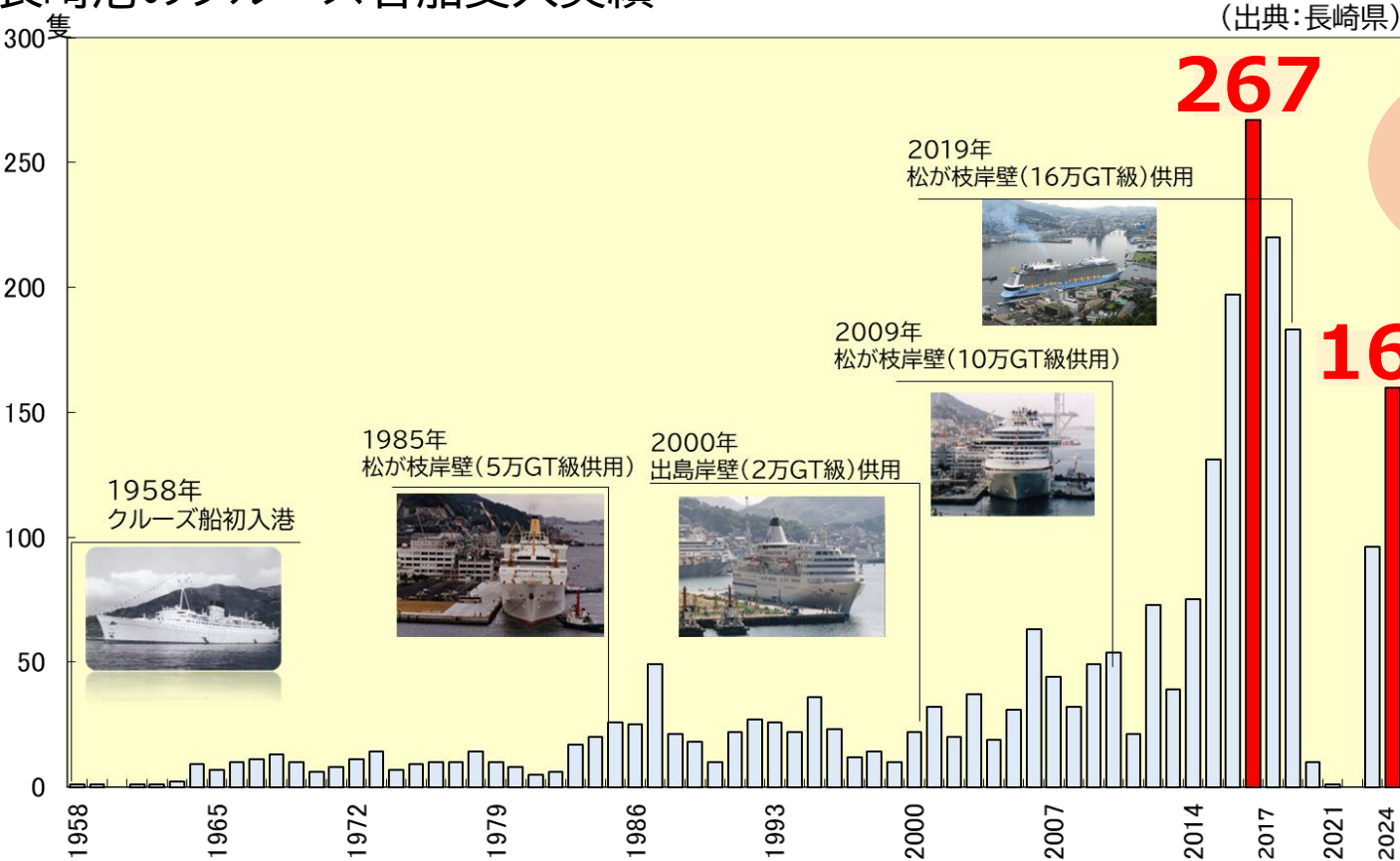


3つのキーワード 【サステナブル】 ・ 【グローバル】 ・ 【デジタル】

① 「交流の場」 としての海

長崎港におけるクルーズ客船の受入

○長崎港のクルーズ客船受入実績



全国
3位



○日本国内におけるクルーズ船入港数

出典:国土交通省 訪日クルーズ旅客数及びクルーズ船の寄港回数(2024年速報値)

順位	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	博多	259	博多	328	博多	326	博多	279	那覇	260	ベラビスタマリーナ	53	ベラビスタマリーナ	82	ベラビスタマリーナ	93	横浜	171	博多	204
2	長崎	131	長崎	197	長崎	267	那覇	243	博多	229	横浜	47	横浜	72	横浜	82	長崎	96	那覇	175
3	横浜	125	那覇	193	那覇	224	長崎	220	横浜	188	神戸	29	神戸	24	神戸	57	ベラビスタマリーナ 神戸	91	長崎	160

海に関わる交流コンテンツ

○軍艦島上陸ツアー



	令和5年度	令和6年度
軍艦島 上陸者数	178,374人	204,380人

○マリンレジャー



② 「資源」 としての海

②- 1 水産資源

長崎大学を代表機関とする産学官連携で 「養殖DXの推進により、若者が集まり 活気づく海と生きる地域社会の実現」を 目指すプロジェクト



NAGASAKI
BLUE ECONOMY

共創の場形成支援プログラム【地域共創分野】

拠点名称：「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点



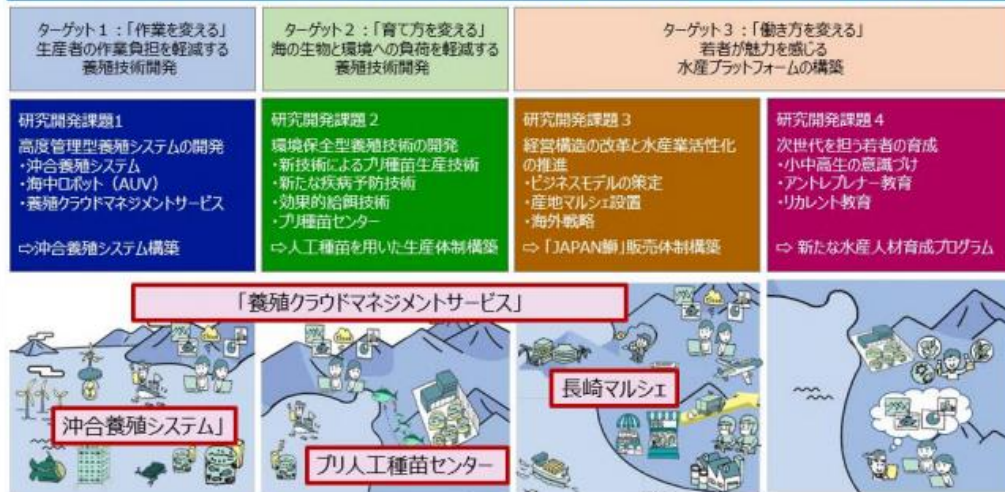
代表機関	長崎大学	プロジェクトリーダー	征矢野 清 長崎大学 海洋未来イノベーション機構 機構長・教授
幹事自治体	長崎県	幹事機関	協和機電工業(株)
参画機関	長崎総合科学大学、高知大学、活水女子大学、東京海洋大学、北海道大学、琉球大学 長崎市、日東製網(株)、(株)島津製作所、京セラ(株)、KDDI(株)、(株)ジャパンアクアテック、(株)極洋、 (株)シーエーシー、福伸電機(株)、東京産業(株)、古野電気(株)、フィード・ワン(株)、(株)十八親和銀行、 東京海上日動火災保険(株)		

プロジェクトの概要

本事業は、「養殖DXの推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現」をビジョンに掲げ、ブリ養殖を柱とした新たな養殖産業を長崎の地から創出し、それによって雇用が生まれ、若者が定着し活気づく地域の構築を目指す。ブリ養殖の技術を高度化し、海外への「JAPAN 鰯」販売も視野に入れた生産販売体制を整えるためには、最新の水産学、海洋工学、社会科学からの総合知を導入した分野横断的イノベーションが必要である。「作業を変える」、「育て方を変える」、「働き方を変える」の3つの視点から養殖業の産業化を推し進め、日本人の魚食の回復と世界中の人々の健康に貢献する持続的水産食料生産の拠点を長崎に形成する。

「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点

ビジョン：養殖DXの推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現



① 「作業を変える」

生産者の作業負担を軽減する養殖技術開発

- ・ 沖合養殖システム
- ・ 海中ロボット（AUV）
- ・ 養殖クラウドマネジメントサービス

② 「育て方を変える」

海の生物と環境への負担を軽減する養殖技術開発

- ・ 効果的な給餌技術
- ・ 疾病予防技術
- ・ 種苗センター設置

③ 「働き方を変える」

若者が魅力を感じる水産プラットフォームの開発

- ・ ビジネスモデル策定
- ・ 産地マルシェ設置



「観光客」

「交流人口拡大」を「経済再生」へ



SNSプロモーション



イベントプロモーション



「市民」

「長崎の魚」を「シビックプライド」へ



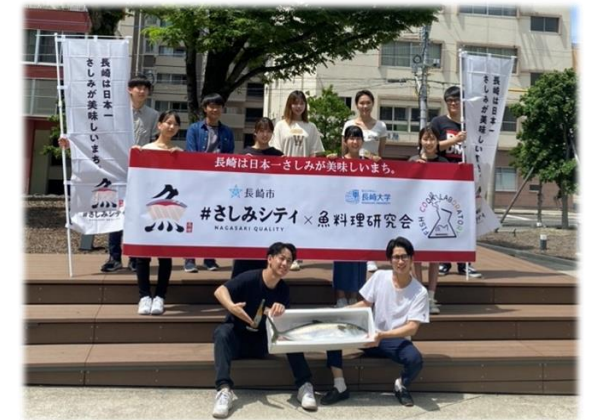
地場スーパーとの連携



テレビプロモーション

「地域」

「さしみシティ」で
「地域の一体感の醸成」へ



大学との連携



企業との連携

②-2 再生可能エネルギー

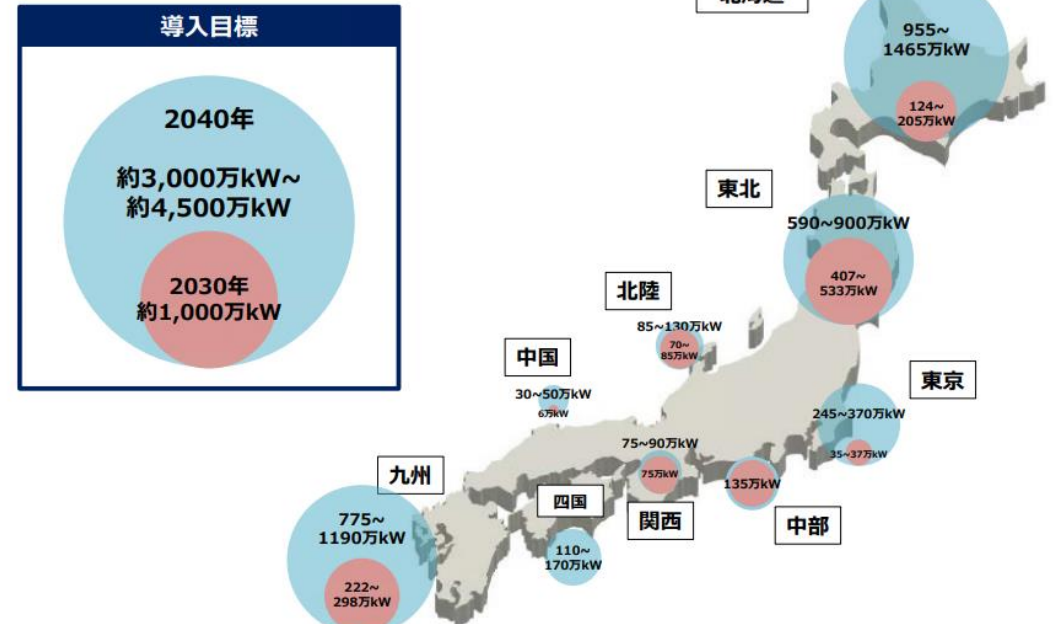
◎ 洋上風力の魅力

- ① 造船業で培ってきた技術技能が転用できる分野
- ② サプライチェーンの形成による経済の活性化
- ③ 今後成長が見込まれる有望分野 etc...



図 五島市沖浮体式洋上風力発電所完成イメージ

【参考】エリア別の導入イメージ



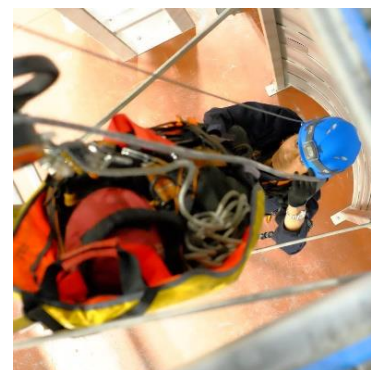
※2030年については、環境アセス手続中（2020年10月末時点・一部環境アセス手続が完了した計画を含む）の案件を元に作成。
※2040年については、NEDO「着床式洋上ウインドファーム開発支援事業（洋上風力発電の発電コストに関する検討）報告書」における、LCOE（均等化発電原価）や、専門家によるレビュー、事業者の環境アセス状況等を考慮し、協議会として作成。なお、本マップの作成にあたっては、浮体式のポテンシャルは考慮していない。

図 洋上風力産業ビジョン（第1次）概要

海洋人材の育成（洋上風力発電訓練施設）

「日本財団洋上風力人材育成センター」が伊王島に開所（R6.11）

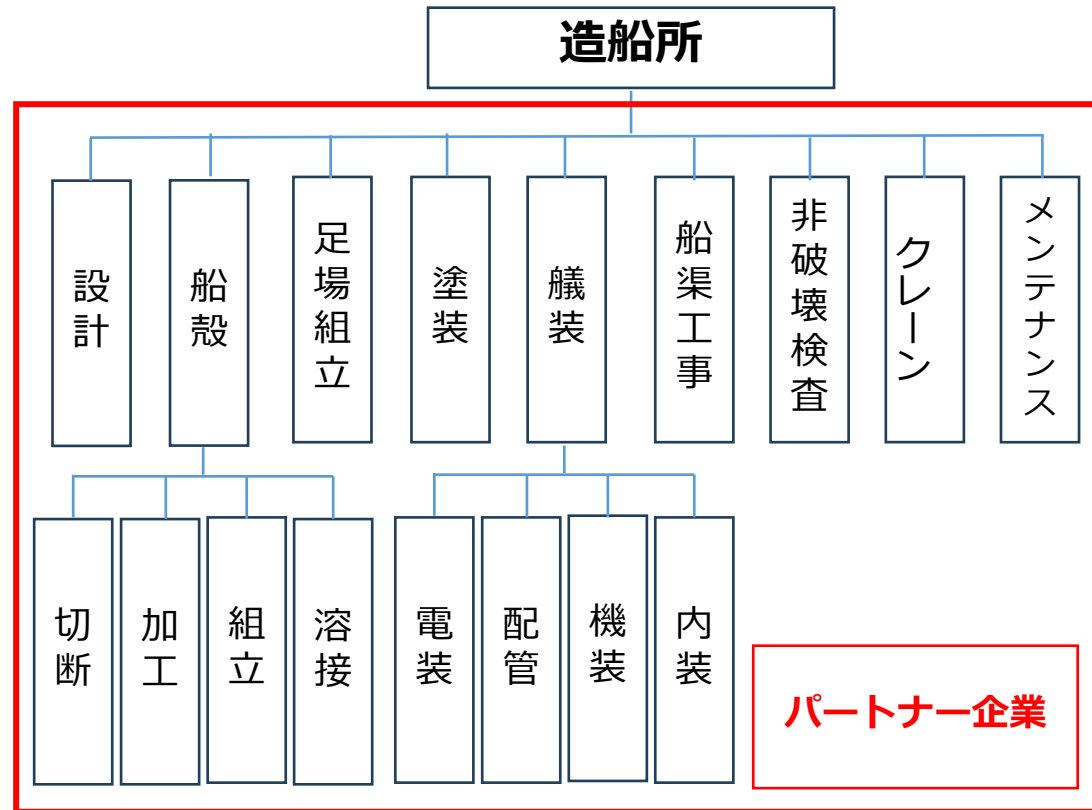
- **洋上風力技能者を年間1,000人**規模で育成する、国内最大のセンター
- ▼
- 洋上風力発電の普及
 - 2050年**カーボンニュートラル社会**の実現に貢献
 - 長崎市の**交流人口・関係人口の創出**



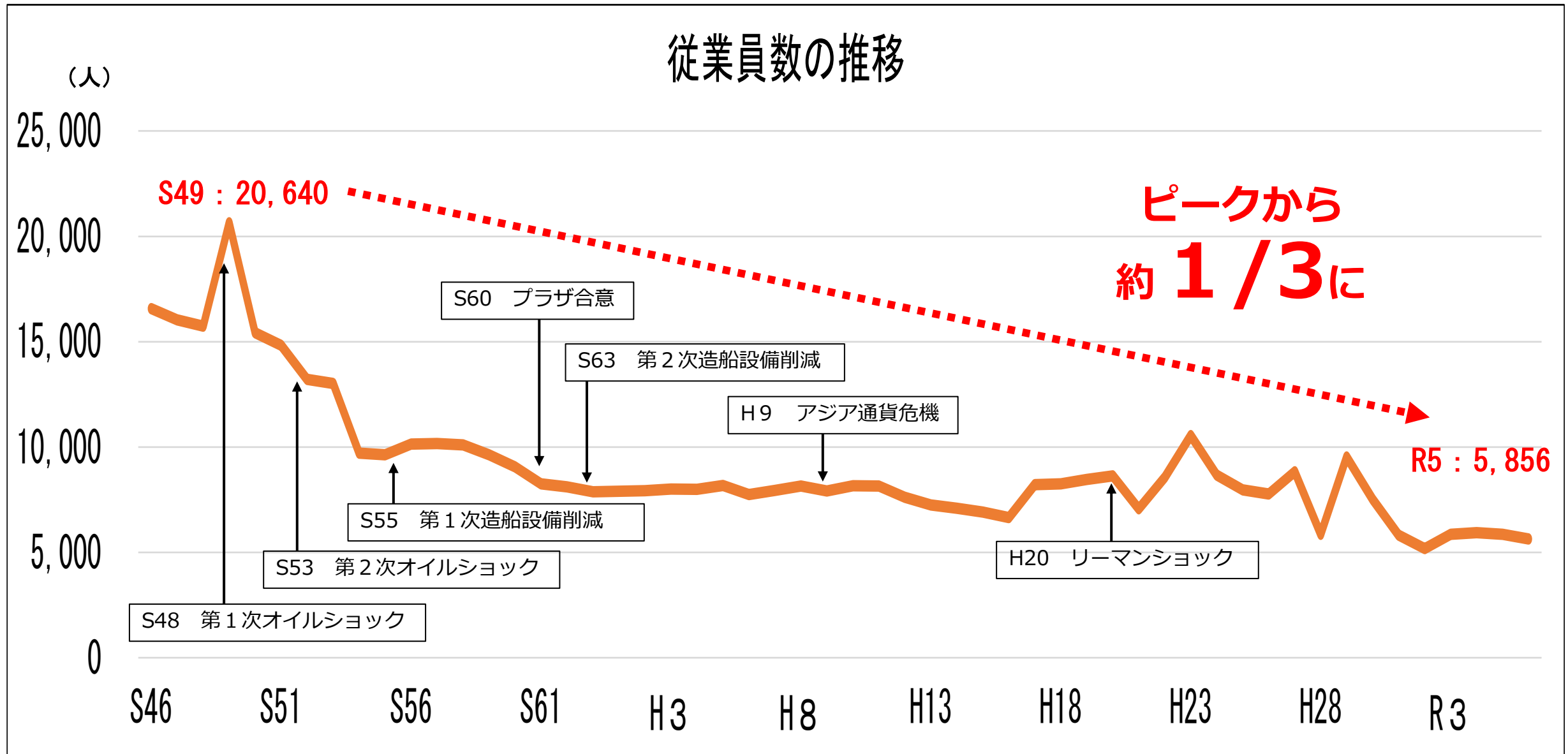
③ 「産業」 としての海

③-1 基幹産業：造船業の振興

◎ 造船関連産業



製造業（汎用機械・輸送用機械）従業員数の長期動向



基幹産業の現況と経済再生の動き

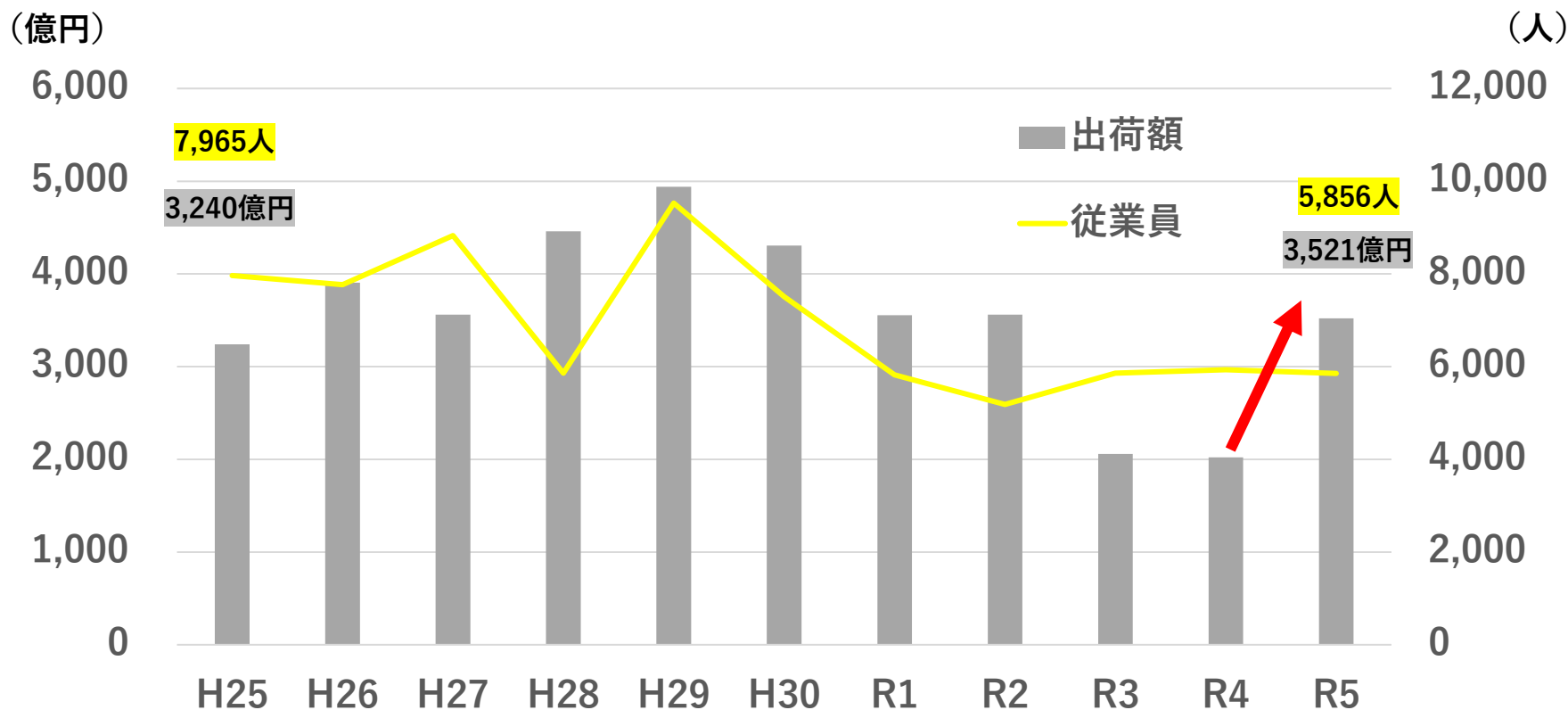
製造業（汎用機械器具・輸送用機械器具）の出荷額・従業員数

※長崎市内の4人以上の事業所が対象

■従業員数：7,965人（H25） ⇒ 5,856人（R5）

※ピーク時（S49年）従業員数：20,640人（うち輸送用 19,627人）

■出荷額：3,240億円（H25） ⇒ 3,521億円（R5）



図：経済構造実態調査

三菱重工航空エンジン長崎工場(R2)



- ・三菱重工業長崎造船所敷地内に立地
- ・「航空機エンジン用燃焼器」を製造

大島造船所香焼工場(R5)



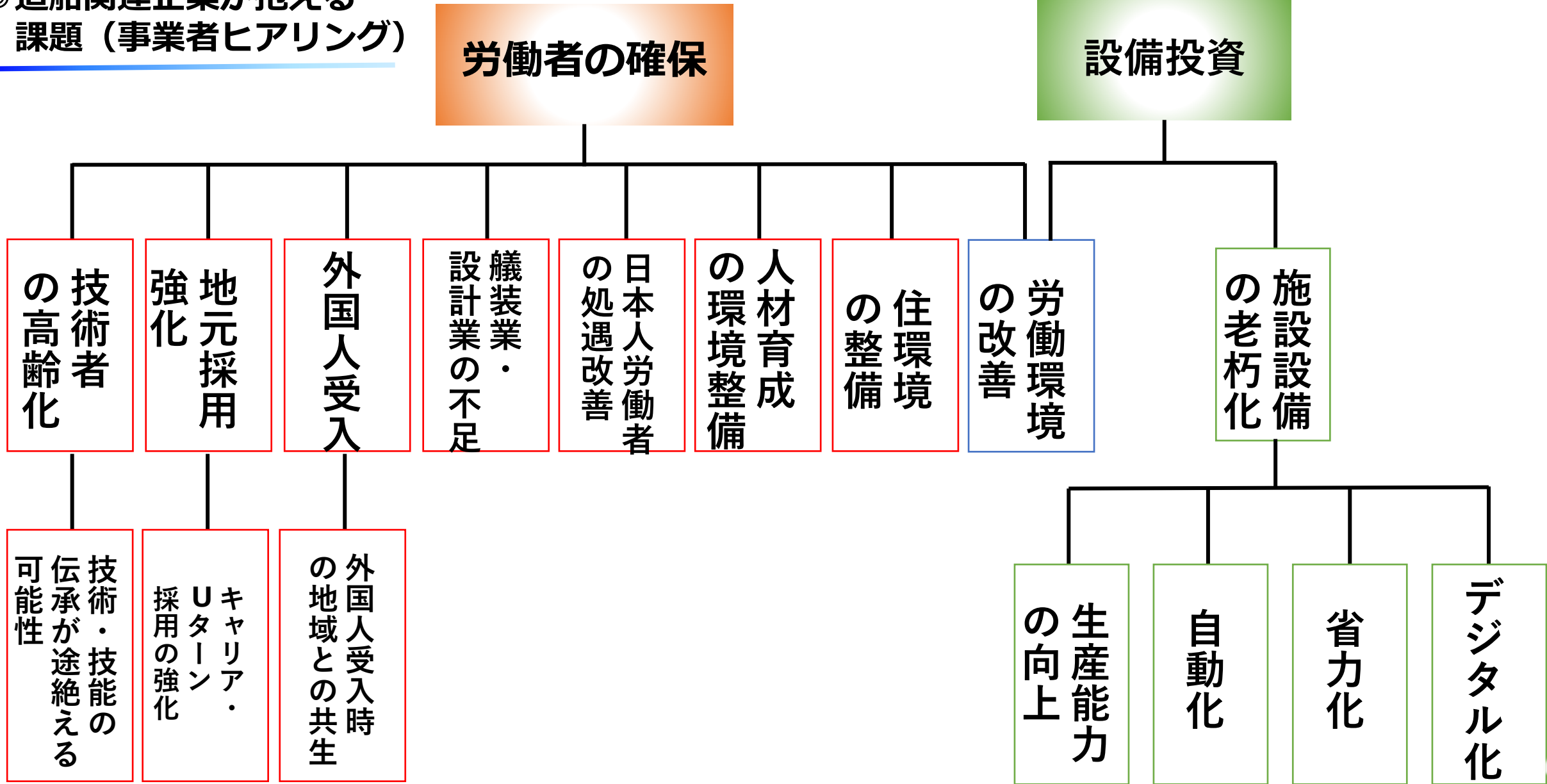
- ・三菱重工業から取得
- ・広さ約95万7000㎡
- ・「ばら積み貨物船」を建造

長崎カーボンニュートラルパーク(R5)

- ・三菱重工業がエネルギー脱炭素に関する技術開発を推進する拠点として整備
- ・水素、バイオマス、アンモニアの利用促進を目指す

長崎市の造船業振興に向けて

◎ 造船関連企業が抱える
課題（事業者ヒアリング）



造船業再生に向けた政府の動向

「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）2025」に造船業の再生が明記（R7.6.13）

- 日米協力を含めた海事サプライチェーンの大幅な強靱化
- ゼロエミッション船等の導入促進
- 日本籍船の保有コスト低減を含めた日本船主等の競争力強化
- 商用自動運航船の実現
- 内航海運・旅客船による安定輸送
- 造船人材の確保など海事人材の育成・確保

「日米両国の造船能力拡大に向けた協力に関する覚書」の締結（R7.10.28）

- 日米両国の建造能力拡大
- 米国海事産業基盤への投資の促進
- 市場経済のための船舶需要明確化（特に経済安全保障上重要な公船・商船）
- 日米両国の造船人材育成のための教育・研修の強化
- 技術革新（先進的な建造技術、先進的な船舶の設計及び機能開発）

「日本成長戦略本部」を設置（R7.11.4）

- 造船、港湾ロジスティクス、海洋など17分野を重点投資対象と決定。来夏までに成長戦略をまとめる方針。

③-2 成長分野への挑戦

長崎港の環境、海洋・ものづくり分野におけるポテンシャル



ポテンシャル

造船・プラント・航空機関連産業分野において、大手造船所はじめ、パートナー企業、物流、研究所、設計等の関連企業が集積



カーボンニュートラル

ポテンシャルを活かして経済成長につながる成長のエンジン



経済と環境の好循環による経済成長

産学官連携によるカーボンニュートラルの取組

推進体制案 (イメージ)

ながさきカーボンニュートラル連絡調整会議

【座 長】長崎市長、長崎県経営者協会長

【事務局】十八親和銀行、長崎商工会議所、長崎市

【構成メンバー】商工会議所、経済同友会、経営者協会、青年会議所、九経連（九州電力、JR九州）、十八親和銀行、経済研究所、県、市、長崎大、長崎新聞ほか事業実施団体(企業)

【概 要】プロジェクトの進捗確認、課題と対応に向けての連携協議、情報共有／年2回程度開催



前回サミットにおける5つの合意事項とスタート時のプロジェクト

①長崎港の電動化 脱炭素化推進事業

陸電供給検討
(長崎県)

LNG
バンカリング
(西部ガス)

②再生可能エネルギー 事業推進

洋上風力発電
参画支援

地場企業参画支援

人材育成
(長崎大・クラ協)

ながさき洋上風力
関連事業推進協議会
【会長】商議所会頭
【事務局】JS銀行、商議所

洋上風力関連サプライ
チェーン構築支援・O&M
参入支援
(長崎県)

その他
再生可能エネルギー
(経営者協会)

③造船関連産業活性化 推進事業

④脱炭素先行 地域づくり事業

脱炭素先行
地域づくり事業
(長崎市)

⑤CN研究・開発・実証 普及・啓発推進

機運醸成・啓蒙活動
(経済同友会・商工会議所・青年会議所)

成長分野の強化

市内事業者の更なる成長が見込まれる分野への
事業参入や事業拡大の取組みを支援（設備投資、研究開発等）

令和6年度の主な取組みと取組実績・成果

成長分野重点化補助金による支援

- ・リーディング企業成長支援補助金
- ・ものづくり成長分野集積促進補助金

**雇用増計画130人、売上高増加67億円の成果
が見込まれている**



採択された企業の取組みは、洋上風力、船舶及び航空機などの先進的テーマが多く**将来的な地域産業の競争力強化につながる芽が生まれている**

補助金活用事例



景観シミュレーターAR版のアプリ作成



溶接ロボットの導入

企業誘致の推進

R5以降

誘致企業数 **15社**※

+ 長崎スタジアムシティ

雇用創出者数

▶ 1,729人

※立地協定に基づくもの
(参考：R3-R4 10社 451人)

※R7.10.01時点

R5以降の誘致企業（環境、海洋ものづくり関連企業 ➡ 太字）

企業名	雇用計画数
(株)皆藤製作所	35人
(株)神鋼環境ソリューション	16人
新晃工業(株)	17人
トランスコスモス(株) ※IT部門の新設	400人
リコーITソリューションズ(株)	55人
ONE DEJIMA(株)	19人
SBエンジニアリング(株)	18人
日揮(株)	8人
(株)タスク	12人
(株)ハイ・アベイラビリティ・システムズ	18人
(株)九州DTS	42人
アイサンテクノロジー(株)	12人
(株)ウイズ・ワン	37人
(株)Wave technology	15人
郵船出光グリーンソリューションズ(株)	25人

③-3 産学官連携の推進

長崎市×民間企業の連携【株式会社商船三井との連携に関する協定締結式】

長崎市

第五次長崎市経済成長戦略のめざすべき姿
「人や企業に選ばれ、産業が進化し続けるまち」
重点施策「海洋・ものづくり分野への支援に関する施策」
の展開



連携協定 締結

株式会社商船三井

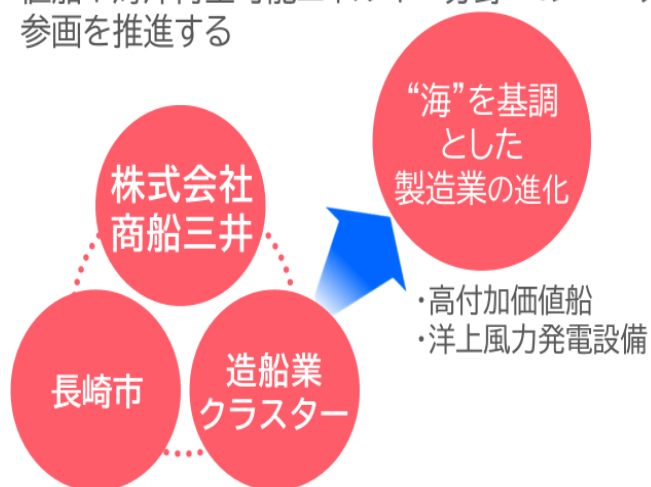
企業理念「青い海から人々の毎日を支え、豊かな未来を
ひらきます」のもと、海運業を中心に様々な社会インフラ
事業を展開

- ① 造船関連産業の推進に関すること
- ② 再生可能エネルギー事業の推進に関すること



造船関連産業の推進

長崎市の基幹産業である造船業クラスターの造船関連技術を活かし、高付加価値船や海洋再生可能エネルギー分野への参画を推進する



新たなサプライチェーンの構築

洋上風力発電事業など海洋再生可能エネルギー分野に関わる新たなサプライチェーンの構築を長崎で進める



長崎港の活性化

造船関連分野及び海洋再生可能エネルギー分野に関わる物流を強化するなど長崎港の更なる活性化を進める



長崎市×民間企業の連携【株式会社大島造船所との連携に関する協定締結式】

長崎市



株式会社大島造船所

連携協定
締結

- ① 市内造船関連産業の振興に関する事
- ② カーボンニュートラル社会の実現に関する事
- ③ 地域コミュニティの活性化に関する事



造船関連産業の推進

- ・造船業を支える人材の確保・育成
- ・長崎市の基幹産業である造船業クラスターの造船関連技術を活かし、環境性能に優れた船舶の建造や海洋再生可能エネルギー分野への寄与



持続可能な社会への実現

- ・最先端の技術や知見など先進的な取組に触れる場の創出
- ・「ゼロカーボンシティ長崎」の活動・アクションへの協力



地域社会との連携

- ・命名式・進水式への地域住民の参加
- ・社内イベントへの近隣住民の参加
- ・地域イベントへの参加強化



協業に向けた取組支援（ながさき企業交流会）

地場企業や誘致企業、大学等の交流を図り、
成長分野におけるコミュニティの活性化や協業を推進する

環境、海洋・ものづくり分野



デジタル分野



共創による新規事業創出の支援（ナガチャレプラス）

地場企業や県外企業などの多様な主体のコミュニティをつくり、セミナーやワークショップなどを通じて新規事業に必要なスキル・ノウハウを学びながら、参加メンバー同士の共創による新規事業の種を創出

令和6年度の主な成果

参加者（延べ） **約450人**



6つの共創プロジェクト誕生



スタートアップ支援（NAGASAKI STARTUP COMPASS）

「NAGASAKI STARTUP COMPASS」と銘打ち、セミナーや起業家育成プログラムを通じて、長崎発スタートアップを創出

令和5～6年度の主な成果

参加者（延べ） **約300人**

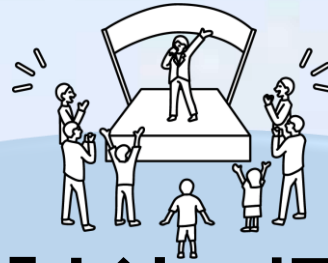


35人が具体的事業プランを策定



4. まとめ

海事立市「長崎」の挑戦のために



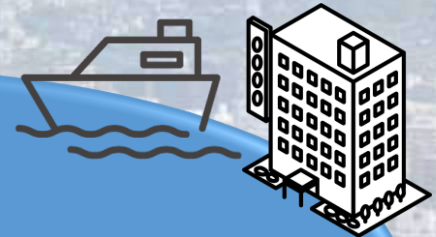
「交流の場」

魅力を磨き上げて高付加価値化



「資源」

魅力向上、カーボンニュートラル、
産業活性化



「産業」

造船業再生、新たな企業集積、
産学官連携による人材育成



海のポテンシャルを活かして、人口減少問題を克服！！

An aerial photograph of Nagasaki, Japan, showing the city built on hills overlooking the harbor. The harbor is filled with ships and piers. In the foreground, there is a green park area with a baseball field. The text "ご清聴ありがとうございました" is overlaid in the center.

ご清聴ありがとうございました

長崎市長 鈴木 史朗